

令和2年度(2020年度)用

中学校技術・家庭 家庭分野用

「新編 新しい技術・家庭 家庭分野」
**臨時休業明けの
年間指導計画参考資料**

令和2年(2020年)6月版

※題材ごとの配当時数、主な学習活動、評価規準などは、今後変更になる可能性があります。ご了承ください。

※「学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動」の活動内容や時数は考えられる案を示しています。

学校や地域の実態に応じてご参照ください。

東京書籍

指導計画例①

生活の自立から共生へと段階的に視野を広げる年間指導計画

この例は、自分から家族、家族から地域へと段階的に視野を広げ、自分や家族のために進んでよりよい生活を工夫していくことをねらいとしている。第1学年から第2学年では、自分の生活を見つめ直し、生活の自立を目指して、内容Bと内容Cを履修させる。その際、内容Dについても関連して履修させる。第3学年では、家族や地域のことを考えてよりよい生活を創造することを目指して、内容Aを履修させる。選択必修である生活の課題と実践については、第1学年の冬季休業中の雑煮作りと第2学年の夏季休業中の安全に住まうための工夫を設定している。

なお、感染症などで第1学年における調理実習の実施が困難な場合には、例えば、学年間で調理実習を含む題材の指導の順序を変更することも考えられる。

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
第1学年	項目	A(1)		B(1) 食生活と栄養				B(2) 献立作りと食品の選択						B(3) 調理と食文化						B(3)ウ 生活の 課題と実践			B(3) 調理と食文化													
	時数	2		5				9						9						4			6													
	学習内容	ガイダンス (※)		<ul style="list-style-type: none"> 食事の役割 健康に良い食習慣 栄養素の種類と働き 中学生に必要な栄養素 				<ul style="list-style-type: none"> 食品に含まれる栄養素 6つの食品群 食品群別摂取量の目安 1日分の献立 生鮮食品と加工食品 食品の選択と購入 食品の保存と食中毒の防止 						<ul style="list-style-type: none"> 日常食の調理(肉、魚、野菜) 地域の食文化 						<ul style="list-style-type: none"> 食生活の課題と実践(例) 日本の食文化を追求しよう 			<ul style="list-style-type: none"> 地域の食材を生かした調理 よりよい食生活を目指して 													
第2学年	項目	C(1) 衣生活と自立				C(2) 住生活と自立				C(3)イ 生活の 課題と 実践		C(3) 生活を豊かにするために						D(1) 私たちの 消費生活			D(2) 環境に 配慮した 消費生活															
	時数	7				6				3		10						6			3															
	学習内容	<ul style="list-style-type: none"> 衣服の働き 目的に応じた着用 個性を生かす服装 衣服の計画的な活用 既製服の選択と購入 衣服の手入れ よりよい衣生活を目指して 				<ul style="list-style-type: none"> 住まいの役割 生活行為と住空間 日本の住まいと住まい方 安全で安心な住まい 健康で快適な住まい よりよい住生活を目指して 				<ul style="list-style-type: none"> 住生活の課題と実践(例) 災害に備えた住まい方を工夫しよう 		<ul style="list-style-type: none"> 生活を豊かにする工夫 製作の計画 布を用いた物の製作 						<ul style="list-style-type: none"> 消費者としての自覚 販売方法と支払い方法 商品の選択と購入 消費者トラブル 消費者の権利と責任 よりよい消費生活を目指して 			<ul style="list-style-type: none"> エネルギー消費と環境 持続可能な社会を目指そう 															
第3学年	項目	A(2)ア 家族・家庭と地域		A(3) 幼児の生活と家族														A (2) イ																		
	時数	3		13.5														1																		
	学習内容	<ul style="list-style-type: none"> 家庭や家族の基本的な機能 中学生としての自立 家庭生活と地域との関わり 		<ul style="list-style-type: none"> 幼い頃の振り返り 幼児の体の発達 幼児の心の発達 幼児の生活習慣の習得 幼児の生活と遊び 幼児との触れ合い 子どもにとっての家族 														<ul style="list-style-type: none"> これからの私と家族 																		

指導時数	A	B	C	D	生活の課題と実践	計
		19.5	29	23	9	7

(※)「家庭分野のガイダンス」では、自分の成長の振り返り、小学校家庭科の学習内容の振り返り、3学年間の学習内容を見通す内容を指導する。

■ 1年

* (関) …関心・意欲・態度 (工) …工夫し創造する能力 (技) …生活の技能 (知) …知識・理解

* [小] …小学校家庭科での学習内容

* 「学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動」を12時間程度行う例。

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動	指導上の留意点	評価の観点
1 ～ 2	家庭分野のガイダンス	A (1) ア	<ul style="list-style-type: none"> 自分の成長を振り返り、自分の成長や生活は家族やそれに関わる人々に支えられていることに気づく。 家庭、学校、地域での生活を振り返るとともに、小学校の学習内容や習得した知識と技術について確認する。 中学校での学習内容に興味を持ち、3学年間の学習の見通しを持つ。 今の自分ができることを点検することを通して課題を見つけ、3年後の自分をイメージする。 		<ul style="list-style-type: none"> 中学校で家庭分野を学ぶ目的や意義を踏まえて、A～Dの4つの内容について具体的に説明する。 家庭生活を振り返るときには、プライバシーに十分配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校の学習を振り返り、中学校3学年間の見通しを持って学習に取り組もうとしている。(関) 自分の成長や生活は家族やそれに関わる人々に支えられてきたことに気づいている。(関)
3 ～ 7	1編 編の導入	B	<ul style="list-style-type: none"> この編の学習の目標と学習内容を知る。 		<ul style="list-style-type: none"> この編の学習の目標、学習内容を説明し、今後の学習の見通しを持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 食生活について関心を持ち、食生活をよりよくしようとしている。(関)
	1編1章 食生活と栄養	B (1) ア	<ul style="list-style-type: none"> 食事の役割についてまとめる。 		<ul style="list-style-type: none"> 生活の中で食事が果たしている役割を考えさせ、食事の役割をまとめる。 [小]食事の役割と楽しい食事 	<ul style="list-style-type: none"> 食事の役割について理解している。(知)
	②食生活の課題を見つけよう	B (1) ア	<ul style="list-style-type: none"> 食生活を点検し、課題を見つける。 心身の健康に良い食習慣について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書p.25やワークシートを用いて、食生活指針について確認し、自分の食生活の改善に取り組むための「私の食生活指針」を考えてまとめる。【0.5時間】 	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな視点から食生活を振り返らせ、自分の課題を考えさせる。 健康に良い食習慣を身につけ、日常生活で実践することの大切さに気づかせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の食生活に関心を持ち、健康によい食習慣を日常生活で実践しようとしている。(関) 自分の食生活を点検し、課題を見つけ、健康に良い食習慣などについて考え、工夫している。(工) 健康に良い食習慣の重要性について理解している。(知)
	③栄養素の種類と働きを知ろう	B (1) イ	<ul style="list-style-type: none"> 栄養素の種類と働きについてまとめる。 体内での水の働きをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書p.27やワークシートを用いて、栄養素の種類と働き、水の働きをまとめる。【1時間】 	<ul style="list-style-type: none"> 栄養素の体内での主な3つの働きと五大栄養素を関連させてまとめる。 中学生の平均体重を示し、水分の割合を具体的にイメージさせ、生命維持のために必要な成分であることに気づかせる。 [小]五大栄養素 	<ul style="list-style-type: none"> 栄養素の種類と働きについて理解している。(知)

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動	指導上の留意点	評価の観点	
	④中学生に必要な栄養について考えよう	B (1) イ	<ul style="list-style-type: none"> 中学生に必要な栄養の特徴について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書p. 28の図1や表1, p. 29図2について、中学生と大人との違いについて分かることやその理由について考え、中学生に必要な栄養の特徴についてまとめる。【0.5時間】 	<ul style="list-style-type: none"> 食事摂取基準から、中学生の時期の栄養の特徴を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学生に必要な栄養の特徴について関心を持ち、自分の食事と関わらせて考えようとしている。(関) 中学生に必要な栄養の特徴について理解している。(知) 	
8 ? 16	1編2章 献立作りと食品の選択	①食品に含まれる栄養素を調べよう	B (2) ア	<ul style="list-style-type: none"> 食品成分表を使い、身近な食品の栄養的な特徴を調べる。 食品の可食部100gと1回に食べやすい量に含まれるカルシウムの量の違いを把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書p. 30-p. 31, p. 96-p. 99やワークシートを用いて、自分の好きな食品について、含まれる栄養素を調べる。【0.5時間】 	<ul style="list-style-type: none"> 食品に含まれる栄養素から食品名を当てるクイズを出題するなど、食品の栄養的特質について関心を持たせる。 1回に食べやすい食品に含まれるカルシウムの量を知らせることにより、いろいろな食品を組み合わせる必要性があることを実感させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 食品の栄養的特質について理解している。(知)
		②何をどのくらい食べればよいか考えよう	B (2) ア	<ul style="list-style-type: none"> 身近な食品を栄養的な特徴により6つの食品群に分類する。 食品群別摂取量の目安と1日に必要な食品の種類と概量を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書p. 33-p. 34やワークシートを用いて、身近な食品を6つの食品群に分類する。【1時間】 	<ul style="list-style-type: none"> 食品群の分類については、栄養素の体内での主な3つの働きとの系統性を考慮して扱う。 実際に、献立に使われている食品を用意し、それらを食品群に分類したり、計量したりする活動を通して、1日に必要な食品の概量を実感させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 食品群や食品群別摂取量の目安について理解している。(知) 食品の栄養的特質や中学生の1日に必要な食品の種類と概量に関心を持ち、食品について調べたり、計量したりしようとしている。(関) 中学生の1日に必要な食品の種類と概量について理解している。(知)
		③バランスの良い食事について考えよう	B (2) イ	<ul style="list-style-type: none"> 中学生に必要な栄養を満たす1日分の献立を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書p. 38-p. 39やワークシートを用いて献立作りの手順を確認し、中学生に必要な栄養を満たす1日分の献立を立てる。【1時間】 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校での学習を振り返り、1食分の献立の例などを挙げさせるようにする。 主に栄養素を考えた食品の組み合わせを中心に献立を考えるよう指導する。 献立を考える際には、嗜好、費用、調理時間、季節などの点からも検討する必要があることも伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学生に必要な栄養を満たす1日分の献立の立て方について理解している。(知) 中学生の1日分の献立について課題を見つけ、必要な栄養を満たすために料理や食品の組み合わせについて考え、工夫している。(工) 必要な栄養を満たす食事のとり方をしようとしている。(関)
		④生鮮食品と加工食品の特徴を知ろう	B (2) ウ	<ul style="list-style-type: none"> 生鮮食品と加工食品の特徴と品質の見分け方を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書p. 45を参考に、身近な食品の表示やマークを調べる。【0.5時間】 	<ul style="list-style-type: none"> 生鮮食品については、調理実習で用いる肉や魚、野菜などについて扱い、加工食品については、身近なものを扱う。 	<ul style="list-style-type: none"> 生鮮食品と加工食品の特徴について理解している。(知)

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動	指導上の留意点	評価の観点	
	⑤食品の選択と購入について考えよう	B(2)ウ	<ul style="list-style-type: none"> 食品を選択する観点について知る。 食品の表示について調べ、まとめる。 用途に応じた食品の選択について考える。 		<ul style="list-style-type: none"> 調理実習で使用する生鮮食品や加工食品の表示調べを行い、主体的な学習となるように配慮する。 調理実習で使用する食品を取り上げ、用途に応じて選択するために必要な情報を収集・整理し、適切な選択をするための工夫を考えることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 生鮮食品や加工食品の表示の意味と良否の見分け方について理解している。(知) 食品の選択における観点について理解している。(知) 身近な食品を選択するために必要な情報を収集・整理することができる。(技) 用途に応じた食品の選択について、収集・整理した情報を活用して考え、工夫している。(工) 	
	⑥食品の保存と食中毒の防止について考えよう	B(2)ウ	<ul style="list-style-type: none"> 食品のさまざまな保存方法を知る。 食中毒の防止について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書p.48-p.49を参考に、家庭で自分なりにできる食品の保存と食中毒の防止の方法を考えてまとめる。【0.5時間】 	<ul style="list-style-type: none"> 保存方法と食品の腐敗や食中毒の原因を関連づけて扱い、適切な保存と計画的な購入の必要性に気づかせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 食品の保存方法や食中毒の防止について理解している。(知) 	
17 と 25	1編 3章 調理と食文化	①日常食の調理をしよう	B(3)ア	<ul style="list-style-type: none"> 献立を決め、食品の調理上の性質を生かした調理の要点をまとめる。 調理に必要な手順や時間を考え、調理計画を工夫する。 調理実習の準備をする。 安全と衛生に気をつけて調理をする。 試食をする。 後かたづけをする。 調理実習の反省をし、評価をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 p.50-p.51 やワークシートを用いて、食品の調理上の性質を生かした調理の要点をまとめる。【0.5時間】 教科書 p.50-p.51 やワークシートを用いて、調理の手順を確認する。【0.5時間】 	<ul style="list-style-type: none"> 肉や魚、野菜を用いた献立を考え、調理上の性質を生かした調理方法を工夫するように助言する。 調理の手順について、安全で能率的方法を考えさせる。 調理の用途に応じた食品の選択を工夫させる。 調理の目的や食材に合った基本的な調理操作を習得できるようにする。 環境へ配慮した調理や後かたづけができるように助言する。 反省を、次回に生かすようにする。 [小]ゆでたり、いためたりする調理 [小]ご飯とみそ汁の調理 	<ul style="list-style-type: none"> 日常食の調理に関心をもち、調理技術を習得しようとしている。(関) 食品の調理上の性質について理解している。(知) 加熱調理と調味の要点について理解している。(知) 食品や調理用具の安全と衛生に留意した取り扱い方について理解している。(知) 基礎的な日常食の調理について、調理に必要な手順や時間を考えて計画したり、食品の調理上の性質を生かした調理を工夫したりしている。(工) 食品や調理用具等の安全と衛生に配慮し、調理実習で実践しようとしている。(関) 調理の目的や食材に合った基本的な調理操作ができる。(技) 安全と衛生に留意し、食品や調理用具等の適切な管理ができる。(技)

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	学校の授業以外において行うことが考えられる教材・学習活動	指導上の留意点	評価の観点
	②肉の調理を工夫しよう	B(3)ア	<ul style="list-style-type: none"> 肉の調理上の性質を知る。 安全と衛生に気をつけて、肉の調理をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 p. 58-p. 59 やワークシートを用いて、肉の調理上の性質をまとめる。【0.5時間】 調理実習で工夫したこと、気づいたことなどをレポートにまとめる。【0.5時間】 	<ul style="list-style-type: none"> 肉の性質や調理方法を理解できない場合は、図や写真などを活用して理解させる。 調理実習が手順よく進められない場合には、次の作業を具体的に指示する。 〔感染症などで実習ができない場合〕 立てた計画に沿って家庭で実践し、気付いたことなどをレポートにまとめる。(出来上がりを写真等で記録する。) 	<ul style="list-style-type: none"> 肉の調理に関心を持ち、肉を用いた調理に意欲的に取り組もうとしている。(関) 肉の調理上の性質を生かした調理方法を考え、工夫している。(工) 肉の調理上の性質について理解している。(知)
	③魚の調理を工夫しよう	B(3)ア	<ul style="list-style-type: none"> 魚の調理上の性質を知る。 安全と衛生に気をつけて、魚の調理をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 p. 66-p. 67 やワークシートを用いて、魚の調理上の性質をまとめる。【0.5時間】 調理実習で工夫したこと、気づいたことなどをレポートにまとめる。【0.5時間】 	<ul style="list-style-type: none"> 魚の性質や調理方法を理解できない場合は、図や写真などを活用して理解させる。 調理実習が手順よく進められない場合には、次の作業を具体的に指示する。 〔感染症などで実習ができない場合〕 立てた計画に沿って家庭で実践し、気付いたことなどをレポートにまとめる。(出来上がりを写真等で記録する。) 	<ul style="list-style-type: none"> 魚の調理に関心を持ち、魚を用いた調理に意欲的に取り組もうとしている。(関) 魚の調理上の性質を生かした調理方法を考え、工夫している。(工) 魚の調理上の性質について理解している。(知)
	④野菜の調理を工夫しよう	B(3)ア	<ul style="list-style-type: none"> 野菜の調理上の性質を知る。 安全と衛生に気をつけて、野菜の調理をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 p. 74-p. 75 やワークシートを用いて、野菜の調理上の性質をまとめる。【0.5時間】 調理実習で工夫したこと、気づいたことなどをレポートにまとめる。【0.5時間】 	<ul style="list-style-type: none"> 野菜の性質や調理方法を理解できない場合は、図や写真などを活用して理解させる。 調理実習が手順よく進められない場合には、次の作業を具体的に指示する。 〔感染症などで実習ができない場合〕 立てた計画に沿って家庭で実践し、気付いたことなどをレポートにまとめる。(出来上がりを写真等で記録する。) 	<ul style="list-style-type: none"> 野菜の調理に関心を持ち、野菜を用いた調理に意欲的に取り組もうとしている。(関) 野菜の調理上の性質を生かした調理方法を考え、工夫している。(工) 野菜の調理上の性質について理解している。(知)
	⑤地域の食材を生かした調理をしよう	B(3)イ	<ul style="list-style-type: none"> 地域の食材や季節の食材について調べる。 地域の食文化について調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の食材や季節の食材、地域の食文化について調べ、レポートなどにまとめる。【1時間】 	<ul style="list-style-type: none"> 地域との連携を図り、地域の食材を生かした調理実習につながるよう配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の食文化の意義について理解している。(知)

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動	指導上の留意点	評価の観点	
26 ～ 29	生活の課題と実践	B(3)ウ	<ul style="list-style-type: none"> 学習してきたことを生かし、改善する点や課題はないか、自分や家族の食生活を見直す。 課題を解決したり、より豊かな生活にしたりするための工夫を考え、計画を立て実践する。 (例) 日本の食文化を追求しよう 立てた計画をグループで発表し合い、計画を見直す。 各自で実践したことをまとめ、発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画した後、家庭で実践する。実践したことをレポートやパワーポイント、ポスターなどにまとめる。【1時間(まとめのみの扱い)】 	<ul style="list-style-type: none"> これまでに学習したことをもとに自分や家族の食生活を見直すようにさせる。 目的を明確に持ち、個性や工夫を生かせるようにする。 計画、実践、評価、改善の一連の学習活動であることを重視させる。 各自の課題の解決を目指した問題解決的な学習を進め、主体的な活動となるように配慮する。 学習した知識と技術を活用し、家庭で実践する意義にも気づかせる。 実践して分かったこと、これからの生活で更に工夫して生かしたいことまで考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 食生活をよりよくするための課題の解決を目指して日常食や地域の食材を生かした調理などの計画を工夫している。(工) 食生活に関心を持って課題を見つけ、計画作りや実践に取り組もうとしている。(関) 実践したことを工夫してまとめ、発表している。(工) 	
30 ～ 35	1編3章 調理と食文化	⑤地域の食材を生かした調理をしよう	B(3)イ	<ul style="list-style-type: none"> 地域の食材を生かした日常食の調理をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 調理実習で工夫したこと、気づいたことなどをレポートにまとめる。【0.5時間】 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の実態に応じて、地域の伝統的な行事食や郷土料理などを調理題材として扱う。 [感染症などで実習ができない場合] 地域の食材を生かした日常食について調べ、立てた計画に沿って家庭で実行し、気付いたことなどをレポートにまとめる。(出来上がりを写真等で記録する。) 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の食材を生かした日常食などの調理を通して、地域の食文化に関心を持っている。(関)
	⑥よりよい食生活を目指して	B	<ul style="list-style-type: none"> 食生活を取り巻く問題を把握し、自分の食生活をよりよくする方法を考える。 		<ul style="list-style-type: none"> 食生活を取り巻くさまざまな問題を、いろいろな角度から考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 食生活を取り巻く問題に関心を持ち、食生活をよりよくしようとしている。(関) 	

■ 2年

* (関) …関心・意欲・態度 (工) …工夫し創造する能力 (技) …生活の技能 (知) …知識・理解

* [小] …小学校家庭科での学習内容

* 「学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動」を7時間程度行う例。

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動	指導上の留意点	評価の観点
1 〜 7	2編 編の導入	C	・この編の学習の目標と学習内容を知る。		・この編の学習の目標、学習内容を説明し、今後の学習の見通しを持たせる。	・衣生活・住生活について関心を持ち、衣生活・住生活をよりよくしようとしている。(関)
	2編1章 衣生活と自立	C(1)	・この章の学習の目標と学習内容を知る。		・この章の学習の目標、学習内容を説明し、今後の学習の見通しを持たせる。	・衣服の着用、選択、手入れについて関心を持ち、衣生活をよりよくしようとしている。(関)
	①衣服の働きを考えよう	C(1) ア	・衣服の目的に応じた着方や個性を生かした着方を考えながら、衣服の働きをまとめる。		・目的に応じて衣服の着方が違う点に着目させ、衣服の社会生活上の働きを考えさせる。 [小]保健衛生上の着方、生活活動上の着方	・衣服と社会生活との関わりに関心を持ち、T.P.O.に応じた衣服を着用しようとしている。(関) ・衣服の社会生活上の機能について理解している。(知) ・目的に応じた着方を考え、工夫している。(工)
	②T.P.O.を踏まえた自分らしい着方を工夫しよう	C(1) ア	・個性を生かした服装について知り、自分らしい着方を考える。	・教科書p.106-p.107やワークシートを用いて、自分らしい着方を考え、レポートなどにまとめる【1時間】	・色や形などの調和や自分らしさを考えた着方を工夫させる。	・T.P.O.を踏まえながら、自分らしい着方を工夫している。(工)
	③衣服の計画的な活用方法を考えよう	C(1) イ	・衣服調べをして、必要な衣服の数量を把握し、過不足や処分の仕方を考える。		・衣服の入手については、購入するだけでなく、環境に配慮する視点から、譲り受けたり、リフォームしたりする方法にも触れる。	・衣服の過不足や処分について考え、衣服の計画的な活用の必要性を理解している。(知)
④必要な衣服を選択しよう	C(1) イ	・手持ちの衣服の活用を考えながら、表示や縫製の良否、手入れの方法や価格など、既製服の適切な選択方法を知る。		・衣服を自分で管理する大切さを知らせ、既製服の適切な選択方法を理解させる。	・既製服の表示の意味について理解している。(知) ・既製服を選択するための情報を収集・整理することができる。(技) ・目的に応じた衣服の適切な選択について考え、工夫している。(工)	

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動	指導上の留意点	評価の観点	
	⑤衣服の手入れをしよう	C(1)ウ	・衣服の洗濯や補修などの手入れの必要性を理解し、衣服の材料や状態に応じた手入れの方法を知る。	・教科書p. 118-p. 125などを参考に、手持ちの衣服について必要な手入れを考えて実践し、レポートにまとめる。【2時間(洗濯機での洗濯時間は省く)】	・衣服を快適に着用するために手入れが必要であることを気づかせ、手入れの実習をさせる。 ・洗濯については、手洗いを基礎とし、洗濯機を適切に使用できるようにする。 [小]手洗いによる洗濯	・衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れに関心を持ち、洗濯や補修の課題に取り組もうとしている。(関) ・衣服の材料や状態に応じた洗濯や補修について考え、工夫している。(工) ・衣服の材料や状態に応じた洗濯や補修ができる。(技) ・洗濯の要点と方法について理解している。(知) ・補修の目的と布地に適した方法について理解している。(知)	
	⑥よりよい衣生活を目標して	C(1)	・よりよい衣生活を目標して、衣服計画を立て、衣服の活用や管理の方法を工夫する。		・衣生活の自立に向けて、自分にできることを具体的に考えさせる。	・衣服の活用や管理について、自分なりに工夫している。(工)	
8 ～ 13	2編 2章 住生活と自立	章の導入	C(2)	・この章の学習の目標と学習内容を知る。		・この章の学習の目標、学習内容を説明し、今後の学習の見通しを持たせる。	・さまざまな住まいを知り、住まいに関心を持ち、住生活をよりよくしようとしている。(関)
		①住まいの役割と住まい方を考えよう	C(2)ア	・住まいの役割や基本的な機能について考える。 ・自分や家族の生活と住まい方との関わりを考える。		・住まいや住まい方は気候風土や文化によっても違うことに気づかせる。 ・住空間と生活行為との関係を理解させ、家族がどのような生活を重視するかで住まい方が異なることに気づかせる。	・自分や家族の住空間と生活行為との関わりについて関心を持っている。(関) ・住まいの役割や基本的な機能について理解している。(知)
		②住まいの安全について考えよう	C(2)イ	・家庭内事故とその原因について知り、安全に住むために改善できることを考える。	・教科書p. 134-p. 139やワークシートなどを用いて授業を振り返って住まいのチェックをし、改善点と改善方法をまとめる。【1時間】	・家庭内事故の具体例から、安全管理の方法を考えさせる。	・安全な室内環境に関心を持ち、整え方や住まい方の課題に取り組もうとしている。(関) ・安全な室内環境になるよう、安全管理の方法を理解している。(知)
		③災害に備えた住まい方について考えよう	C(2)イ	・住まいの災害対策について知り、災害に備えてできることを考える。		・災害の特徴を知らせ、住まいの災害対策を具体的に考えさせる。	・災害に備えた住まい方に関心を持ち、課題に取り組もうとしている。(関) ・災害に備えた住まい方について理解している。(知)

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動	指導上の留意点	評価の観点
	④健康で快適な室内環境を工夫しよう	C(2)イ	・健康で快適な室内環境の条件を知り、改善方法を考える。		・室内の空気の汚染や音の及ぼす影響を取り上げ、室内環境を整える必要性に気づかせ、改善方法を考えさせる。 [小]暑さ・寒さ、通風・換気、明るさなどを考えた快適な室内環境の整え方	・健康で快適な室内環境に関心を持ち、整え方や住まい方の課題に取り組もうとしている。(関) ・健康で快適な室内環境の条件を理解している。(知)
	⑤よりよい住生活を目指して	C(2)	・家族が安全で快適に住むための室内環境について課題を見つけ、改善方法を考える。		・具体例を挙げて、家族が安全で快適に住むための工夫を考えさせる。	・安全で快適に住むための方法を考え、工夫している。(工)
14 ～ 16	生活の課題と実践	C(3)イ	・学習してきたことを生かし、改善する点や課題はないか自分や家族の住生活を見直す。 ・課題を解決したり、より豊かな生活にしたりするための工夫を考え、計画を立て実践する。 (例) 災害に備えた住まい方を工夫しよう ・立てた計画をグループで発表し合い、計画を見直す。 ・各自で実践したことをまとめ、発表し合う。	・計画した後、家庭で実践する。実践したことをレポートやパワーポイント、ポスターなどにまとめる。【1時間(まとめのみの扱い)】	・これまでに学習したことをもとに自分や家族の住生活を見直すようにさせる。 ・目的を明確に持ち、個性や工夫を生かせるようにする。 ・計画、実践、評価、改善の一連の学習活動であることを重視させる。 ・各自の課題の解決を目指した問題解決的な学習を進め、主体的な活動となるように配慮する。 ・学習した知識と技術を活用し、家庭で実践する意義にも気づかせる。 ・実践して分かったこと、これからの生活でさらに工夫して生かしたいことまで考えさせる。	・住生活をよりよくするための課題を見つけ、解決を目指して計画を工夫している。(工) ・住生活に関心を持って課題を見つけ、計画作りや実践に取り組もうとしている。(関) ・実践したことを、工夫してまとめ、発表している。(工)
17 ～ 26	2編3章 生活の豊かにするために	C(3)	・この章の学習の目標と学習内容を知る。		・この章の学習の目標、学習内容を説明し、今後の学習の見通しを持たせる。	・布を用いた物の製作に関心を持って取り組み、家族や自分の生活をより豊かにしようとしている。(関)

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動	指導上の留意点	評価の観点
	①生活を豊かにするための工夫をしよう	C(3)ア	<ul style="list-style-type: none"> 生活の中で、あるといいなと思うものを考えさせる。 製作に必要な材料や用具、製作手順や時間などの見通しを持つ。 生活を豊かにする具体的な物を製作する。 		<ul style="list-style-type: none"> 補修の技能を生かした製作品を考えさせる。 計画内容を確認し、安全で能率よく実践できるように、今後の学習の見通しを持たせる。 手縫いやミシン縫い、アイロンなど基礎的・基本的な知識や技術を活用させる。 完成後の製作品や、それを活用している姿を想像しながら製作に臨むと、学習意欲が高まる。 製作を通して、自分や家族の生活を豊かにすることの大切さを実感させる。 [小]生活に役立つ物作り	<ul style="list-style-type: none"> 衣生活や住生活を豊かにするための製作品を考え、製作計画や方法について自分なりに工夫している。(工) 材料や用具の適切な選択や、用具の安全な取り扱いに関する知識を身につけている。(知) 安全に用具を取り扱い、目的に応じた縫い方で製作することができる。(技)
27 ～ 32	4編 編の導入	D	<ul style="list-style-type: none"> この編の学習の目標と学習内容を知る。 自分の生活を振り返り、消費生活や環境との関わりについて考える。 		<ul style="list-style-type: none"> この編の学習の目標、学習内容を説明し、今後の学習の見通しを持たせる。 自分の生活と消費や環境との関わりについて考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分や家族の消費生活や環境との関わりについて関心を持ち、消費生活をよりよくしようとしている。(関)
	4編1章 私たちの消費生活 ①消費者としての自覚を持とう	D(1)ア	<ul style="list-style-type: none"> 自分や家族の消費生活を振り返り、適切な消費行動について点検する。 契約の意味について理解する。 		<ul style="list-style-type: none"> 自分の消費に使える金銭には限りがあることや優先順位を考えた計画的な支出が必要であることに気づかせる。 [小]物や金銭の大切さ、計画的な使い方	<ul style="list-style-type: none"> 家庭生活における消費の重要性に気づいている。(関) 消費者としての自覚を持つようとしている。(関) 契約の意味について理解している。(知)
	②販売方法と支払い方法について知ろう	D(1)イ	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な買い物の場面を取り上げ、販売方法や支払い方法について考える。 		<ul style="list-style-type: none"> 販売方法や支払い方法について理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 販売方法や支払い方法に関する知識を身につけている。(知)
	③商品の選択と購入について考えよう	D(1)イ	<ul style="list-style-type: none"> 商品(物資やサービス)を適切に選択、購入する方法について考える。 商品の選択、購入をするときに必要な情報を収集し、整理する。 商品の活用方法についても考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書p.230-p.233やワークシートを用いて、商品購入のシミュレーションをしてレポートにまとめる。 【1時間】	<ul style="list-style-type: none"> 意思決定のプロセスを用いて商品購入についてシミュレーションさせる。 本当に必要かどうか判断することの大切さに気づかせる。 商品の表示やマークについて知らせる。 多くの情報の中から適切な情報を収集・整理し、物資やサービスの適切な選択ができるようにする。 [小]身近な物の選び方、買い方	<ul style="list-style-type: none"> 物資・サービスの適切な選択、購入および活用について必要な情報を収集・整理することができる。(技) 物資・サービスの選択、購入、活用に関する知識を身につけている。(知)

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動	指導上の留意点	評価の観点	
	④消費者トラブルを解決する方法を考えよう	D(1)イ	<ul style="list-style-type: none"> 消費者に関わるトラブルなどの実際の例を取り上げ、その解決方法について考える。 消費者トラブルの解決方法をグループで話し合い、発表する。 		<ul style="list-style-type: none"> 消費生活センターやクーリング・オフ制度などについて理解させる。 中学生に関わりの深いトラブル事例を取り上げて、調べさせるなど、生徒が主体的に学習できるように工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な消費者トラブルの事例とその解決方法を理解している。(知) 消費者としての自覚を持ち、課題を見つけ、その解決を目指して工夫している。(工) 	
	⑤消費者の権利と責任について考えよう	D(1)ア	<ul style="list-style-type: none"> 実際の消費生活と結びつけ、消費者の権利や責任について理解する。 		<ul style="list-style-type: none"> 消費者の権利と責任については、中学生の消費行動や具体的な事例と関わらせて考えさせる。 消費者基本法の趣旨を説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> 消費者の基本的な権利と責任について理解している。(知) 消費者基本法について理解している。(知) 	
	⑥よりよい消費生活を目指して	D(1)	<ul style="list-style-type: none"> これまで学習したことを生かして、消費者のひとりとして、環境のため、社会のためにできることを考える。 		<ul style="list-style-type: none"> 自分や家族の消費行動が社会全体に影響を与えることを知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 消費者としての自覚を高め、よりよい消費生活を工夫している。(工) 	
33 ～ 35	4編2章 環境に配慮した消費生活	①エネルギー消費を減らす方法を考えよう	D(2)ア	<ul style="list-style-type: none"> 自分や家族のエネルギー消費が環境に与える影響について知らせ、エネルギー消費を減らす方法について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書p.247やワークシートを用いて、エネルギー消費と環境や持続可能な社会について振り返り、自分や家族にできることを考え実践し、レポートなどにまとめる。【1時間(計画まで)】 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭でできる省エネルギーについて具体的に考えさせる。 自分や家族の生活の仕方が身近な環境に与える影響について考えやすくするために、具体的な事例などを提示する。 <p>[小]身近な環境との関わり、物の使い方の工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> 環境に配慮した消費生活について考え、工夫しようとしている。(工) 環境に配慮した生活を送る必要性を理解している。(知)
		②持続可能な社会を目指そう	D(2)ア	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な社会を目指して、自分や家族ができることを考える。 		<ul style="list-style-type: none"> 循環型社会を目指して、自分の生活の在り方を考え、工夫し実践することの大切さを理解させる。 環境に配慮した消費生活が循環型社会を形成する基盤であることに気づかせる。 これからの生活を展望して、ひとりひとりが環境に配慮した生活を送る必要性に気づかせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分や家族の消費行動が環境に与えている影響について関心を持っている。(関) 持続可能な社会を目指し、生活の在り方を工夫し、実践しようとしている。(工)

■ 3年

* (関) …関心・意欲・態度 (工) …工夫し創造する能力 (技) …生活の技能 (知) …知識・理解

* [小] …小学校家庭科での学習内容

* 「学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動」を3時間程度行う例。

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動	指導上の留意点	評価の観点
1 ~ 3	3編 編の導入	A	・この編の学習の目標と学習内容を知る。		・この編の学習の目標，学習内容を確認し，今後の学習の見通しを持たせる。	・自分の成長や家族・家庭，幼児の発達と生活について関心を持ち，家庭生活をよりよくしようとしている。(関)
	3編1章 ①家庭や家族の機能について考えよう 家族・家庭と地域	A(2) ア	・家庭や家族の基本的な機能について考える。 ・家庭や家族の大切さについて考える。	・教科書p. 176-p. 177やワークシートを用いて，家族や家庭の基本的な機能についてまとめる。 【0.5時間】	・家庭や家族の機能として，子どもを育てる機能や心の安らぎなどの精神的な機能があることを取り上げ，それらは衣食住などの生活の営みによって支えられていることに気づかせる。 [小]家庭生活と家族	・家庭や家族の機能について理解している。(知) ・家庭や家族の重要性について理解している。(知)
	②中学生としての自立を考えよう	A(2) ア	・自分と家族との生活を振り返り，中学生としての自立について考える。	・教科書p. 178図1，p. 179図2やワークシートを用いて，家庭における自分の役割を確認し，家族の一員としてできることをまとめる。【0.5時間】	・中学生になった自分と家族の生活を振り返り，家庭における自分の役割に気づかせる。その際，小学校での学習内容や，家庭分野のガイダンスのページを活用するなど，家族や地域の一員としてできることを具体的に考えられるように工夫する。 [小]家庭の仕事	・中学生として自分や家族の生活に関心を持ち，家族や地域の一員として生活をよりよくしようとしている。(関) ・自分と家族・家庭について課題を見つけ，その解決を目指して考えたり，自分なりに工夫したりしている。(工)
③家庭生活と地域との関わりを考えよう	A(2) ア	・地域の活動などを調べ，自分や家族がどのように関わっているか考える。		・家庭生活は，地域の人々とのつながりの中で成り立っており，相互の関わりによって生活をよりよくできることに気づかせる。 ・日常生活から，具体的な事例を挙げさせ，地域の人々との関わりを考えさせる。 [小]近隣の人々との関わり [感染症などで実習ができない場合] ・教科書p. 180図1やワークシートを用いて，地域を調べ，自分にできることを考え，まとめる。	・自分や家族，地域との関わりについて関心を持っている。(関) ・家庭生活は，地域と相互に関連して成り立っていることを理解している。(知)	

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動	指導上の留意点	評価の観点
4 ～ 17	3編2章 成長を振り返ろう	A(1) ア A(3) ア	・自分の成長を振り返る。	・自分の幼児期の写真や記録、その頃のエピソードなどを調べて、まとめる。【1時間】	・自分が生まれてから今までを、写真資料などを見せながら思い出させる。	・多くの人との関わりの中で成長してきたことを再確認している。(関)
	①幼い頃を振り返ろう	A(3) ア	・自分の幼児期を振り返り、幼い頃の夢、エピソードなどをまとめる。		・幼い頃に好きだったものなどをまとめさせたり、インタビューや写真、ビデオなどを手がかりにしたりして振り返ることができるようにする。 ・生徒のプライバシーには、十分に配慮する。 [小]自分の成長と家族	・自分の幼い頃をさまざまな視点から振り返ろうとしている。(関)
	②幼児の体の発達について考えよう	A(3) ア	・幼児の体の発達の特徴について考える。		・身体や運動機能の発達には、一般的な方向や順序があるとともに個人差があることに気づかせる。	・幼児の体の発達の特徴について理解している。(知)
	③幼児の心の発達について考えよう	A(3) ア	・幼児の心の発達の特徴について考える。		・情緒、社会性、言葉の発達の概要とそれを支えている生活の重要性について分かるようにする。 ・心の発達には、一般的な方向や順序があるとともに個人差があることに気づかせる。 ・心の発達には家族や身近な人への信頼関係を形成することが大切であることを気づくようにする。	・幼児の心の発達の特徴について理解している。(知)
	④幼児の生活習慣の習得について考えよう	A(3) ア	・幼児の生活習慣がどのように身についていくのか考える。 ・生活習慣の習得を支える家族の役割を考える。		・食事、睡眠、排せつ、着脱衣、清潔などの基本的な生活習慣については、生活の自立を目指し、幼児の心身の発達に応じて身につけさせる必要があることを理解させる。 ・生活習慣の習得については、幼児の心身の発達に応じて、周囲の大人が適切に関わり、身につけさせる必要があることに気づくようにする。	・生活習慣は、幼児の心身の発達に応じて、周囲の大人が適切に関わり、身につけさせる必要があることを理解している。(知)

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動	指導上の留意点	評価の観点
	⑤幼児の生活と遊びを知ろう	A(3)イ	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の1日の生活を知り、幼児にとっての遊びの意義について考える。 ・幼児の生活やいろいろな遊びを観察し、遊びで育つ力について考える。 ・遊び道具や遊び場所について調べ、遊び道具の役割や遊ぶ環境について考える。 ・遊び道具を作る。 		<ul style="list-style-type: none"> ・幼児にとっての遊びは、生活そのものであり、身体の発育や運動機能、言語、情緒、社会性などの発達を促していることが分かるようにする。 ・幼児期に適切で十分な遊びを経験することが子どもの成長にとって重要であることに気づかせる。 ・発達段階や子どもによって、遊びの種類や遊び方、友達との関わり方などが異なる特徴を持っていることに気づかせる。 ・遊び道具は、子どもの成長やコミュニケーションを促す上で大切であることに気づかせる。 ・遊び道具の製作の目的は、幼児の理解を深めることが目的であることを押さえる。 ・幼児の心身の発達を踏まえ、幼児が興味を持って楽しく遊べる遊び道具になるよう工夫させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児にとっての遊びの意義を理解している。(知) ・幼児にとっての遊びは生活そのものであることを理解している。(知) ・遊びは、体の発達や運動機能、言語、情緒、社会性などの発達を促していることを理解している。(知) ・幼児の遊び道具の製作などを通して、幼児に関心を持っている。(関) ・幼児の発達段階を押さえた遊び道具、遊び方について考え、工夫している。(工)
	⑥幼児との関わり方を考えよう	A(3)ウ	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児との触れ合いについて、自分の課題を設定する。 ・幼児に合った接し方や遊びを工夫し触れ合う方法を考える。 		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自分なりの課題を持ち、幼児の発達の状況に応じた関わり方を工夫し、実践できるようにする。 ・幼児と触れ合うことの良さに気づくなど、幼児との関わりが積極的に行えるようにする。 [感染症などで実習ができない場合] ・幼児と触れ合う活動は困難である可能性が高いため、視聴覚教材やロールプレイングなどを活用し、関わり方の工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を持って、幼児と適切に関わろうとしている。(関) ・幼児への関心を深めることができる。(関) ・幼児の心身の発達に応じた関わり方について考え、工夫している。(工)
	⑦幼児との関わり方についてまとめよう	A(3)ウ	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児との触れ合い活動を通して、学んだことを発表する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・体験したことを振り返ったり、まとめたり、話し合ったりするなど、関わりが深まるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の遊びや遊び道具、遊びと心身の発達との関わりなどについて、観点に基づいて観察し、整理することができる。(技)

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動	指導上の留意点	評価の観点
	⑧子どもにとっての家族について考えよう	A(3)	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが育つ環境としての家族の役割を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書などで幼児の学習を振り返り、子どもが育つ環境としての家族の役割についてまとめる。【1時間】 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭生活の中で、親やそれに代わる人が愛情を持って接し、幼児との基本的な信頼関係を形成することが大切であることに気づかせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもを育てる環境としての家族の役割を理解している。(知)
18	3編3章 これからの私と家族 ①中学生にとっての家族について考えよう	A(2) イ	<ul style="list-style-type: none"> 家族との関わりや、これからの自分の家庭生活について考える。 家族関係をよりよくする方法を考える。 		<ul style="list-style-type: none"> 家族の互いの立場や役割を理解し、協力して家族関係をよりよくすることが大切であることに気づかせる。 家族関係をよりよくするためにどのような方法があるか、家族の一員としてどのようなことができるのか、具体的に考えさせ、これからの生活で実践できるようにさせる。 生徒に関わりの深い課題を取り上げ、ドラマ、物語、ロールプレイングなどを通して、具体的に考えさせる。 生徒のプライバシーには、十分に配慮する。 <p>[小]家族との触れ合いや 団らん家庭生活と家族</p>	<ul style="list-style-type: none"> 家族との関わりや、これからの自分の生活に関心を持ち、実践しようとしている。(関) 家族関係をよりよくする方法を考え、工夫している。(工)